

# 精密検査対象者が急増

## OCHIS SAS検査結果を発表

ヘルスケアナネット  
トラック事業者をふくめ  
ワークはこのほど、睡眠  
眠時無呼吸症候群(SAS)  
の平成26年度検査結果を  
発表した。作本貞子副理事長は「ト

ラック事業者をふくめ  
全体で1万4000人  
超に検査を受けていた  
「だいた」と説明する。

トトラック関係者のSAS  
検査実施者数は1  
万1251人(男性1  
万989人、女性26  
2人)で、平均年齢は  
45歳。今回の検査結果  
の特徴として、「精密  
検査が必要な人の割合  
が、全体の37・6%と  
急増している」と、作  
本氏は解説する。

また、前年度に比べ  
検査実施者が大幅に  
増えたことについて、  
「我々の活動の認知度  
が上がっていることも  
要因として挙げられる  
が、北陸自動車道など  
での事故を受け、重症  
とみられるドライバー  
を中心として検査を申  
し込まれたのではない  
か」と分析する。

SASと疑われた9  
35人のうち、SAS

確定診断を受けたのは  
818人と約88%に  
ぼった。また、935  
人のうちCPAPを用  
いた治療(無呼吸を防  
ぐSASの代表的な治  
療方法)が必要と診断  
されたのは393人  
(42%)。「精密検査が  
必要なD・D+の人が  
多く、さらに治療が必  
要な人が想像以上に多  
いことが判明した」と  
作本氏。

D・D+判定者の割  
合は、実施年齢が高く  
なるほど多くなる傾向  
にあり、実施人数の最  
も多い40代のD・D+

判定者は1757人と  
なった。また、体格指  
数(BMI)25以上の  
肥満者の割合では、働  
き盛りの30代から50代  
の3人に1人が肥満。  
「肥満・加齢に伴うと  
D・D+判定者はすべ  
ての年代で増加傾向と  
なる。肥満を伴うSAS  
患者には、治療で減  
量の指導も行われる」  
という。

もう一つ注目すべき  
データは、昼間の眠り  
に関する自覚症状から  
SASの可能性を調  
べる「ESSテスト」  
と、D判定者数の関係  
性だ。このテストで  
は、11点以上が「自己  
認識によるSASの有  
所見」とみなされるが  
10点以下の自己認識が  
ないと回答した中で、  
精密検査が必要なD判  
定者は37・4%だった。  
一方で、自己認識があ  
ると答えた中でD判定  
者は39・4%と、自己  
認識がない場合とほぼ  
数値的に変わらない結  
果となった。つまり、  
自覚の有無と判定結果  
には、ほとんど相関関  
係がないことが判明し  
ている。

最後に、「秋頃はス  
クリーニング検査の申  
し込みが増えるので、  
比較的申し込みが少な  
い今の時期に申し込ん  
でいただきたい。SAS  
の積み重ねで、さら  
に病状悪化を招くの  
で、ドライバーの方に  
は健康診断を受けるよ  
うに促し、必ずSAS  
検査も受けていただき  
たい。CPAPによる  
治療は睡眠の質を高  
め、効果を発揮する。  
SASではないかと悩  
むドライバーは早く検  
査し、治療を受けてい  
ただきたい」と、検査  
の必要性を呼びかけ  
た。(木村麻理奈)



作本副理事長

また「SAS治療で  
高血圧が改善されたド  
ライバーもいる。精密  
検査を受けないドライ  
バーには、『精密検査

を受けてこそ安全運行  
につながる』『精密検  
査はプロドライバーと  
しての責務』と、説得  
していただきたい」と  
話す。